



著者プロフィール: 日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリクマルカなどのグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始め。98年長期渡西。マドリードのタブラオ・カサ・パタス、やセビーージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街で」出演。主な参加CD・DVD: 風廊(渡辺えり)、天国を見た男(沢田研二)、Boy (coba) 他。Estudio ROMERO 主宰。

**VOL.4**  
**ALEGRÍAS ①**

～はじめに～

今回からはアレグリアスを取り上げます。アレグリアスの踊りの形式は前回取り上げたソレアなど他の曲種に比べて、より完成されています。まずはアレグリアスの特徴と曲全体の大きな流れを確認していきましょう。

**アレグリアスの特徴**

喜び (alegría) という意味を持つアレグリアスは、明るい気候の港町カディスで生まれました。喜びといっても、19世紀初頭のナポレオン軍との戦いを歌っているものもあります。これはアラゴン地方の舞曲であるホタを、ソレアのコンパスにのせて歌ったものがもとになっているといわれています。曲想は明るく陽気で、小気味いいテンポで踊られます。アレグリアスを踊るヒントとしては、本誌2004年4月号「特集・粋に、アレグリアス」にも書きましたので、参考にしてください。

**コンパスと音階**

アレグリアスのコンパスはソレア同様1拍目から始まって、3、6、8、10、12拍目にアクセントがある12拍子です(ソレアと異なり、通常2コンパス単位で伴奏されます)。ソレアの調性や音階がミの旋法なのに対し、アレグリアスは長調(メジャーキー)の明るい曲です。

**ワンポイント→ギター・歌**

長調 (mayor) とは、簡単にいうとドレミファソラシド (Cメジャー) の明るい音階です。実際にはアレグリアスやロメーラなどはEメジャーやAメジャー、カラコレスはCメジャーで弾かれることが多いです。



**アレグリアス系の曲種**

アレグリアス系の曲種は、他にロメーラス (Romerías)、ミラブラス (Mirabrás)、カラコレス (Caracoles)、ロサス (Rosas)、カンティーニャス (Cantiñas)、カンティーニャス・デ・ピニーニ (Cantiñas de Pinini)、アレグリアス・デ・コルドバ (Alegrijas de Córdoba) などがあります。同じ長調の曲といっても、途中にミラブラスやカラコレスはミの旋法、アレグリアス・デ・コルドバは短調に展開する旋律を持っています。

## アレグリアスの踊りと歌の構成

一般的なアレグリアスの全体の曲構成や歌振りの構成は以下の通りです。

### アレグリアスの曲構成

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧  
前奏— サリーダ— 歌振り — シレンシオ— カステジャーノ — エスコビージャ — ブレリア — ハケ

①前奏: ギターによるイントロ。良い前奏を弾くことで歌手が歌いたくなる!

②サリーダ: 歌手の喉鳴らし。サリーダ(salida)とは出発とかスタートという意味なので、歌だけでなくギター前奏や踊り出し部分にも使われます。やはり良いサリーダを歌うことで踊り手の集中力が増して良い踊りへとつながるので、重要な部分です。サリーダは喉鳴らしなので特にコンパス数は決まっておきませんが、ティリテイトランなどの2コンパス一回りのフレーズを歌うことが一般的です。サリーダを良く聴いてから踊るように心がけてください。

③歌振り: レトラ(letra)。曲の構成によってはレトラが二つ以上になったり、ファルセータが入る場合も多いです。踊り手は、自分の振りのレトラの数やファルセータの有無を伴奏者に説明できるようにしてください。

④シレンシオ: silencio(静寂)という意味で、通常はギターで短調(マイナーキー)6コンパスと、長調(メジャーキー)4コンパス分の旋律をゆっくり弾く部分です。ロサとも呼ばれる後半4コンパスの長調の部分に4連の足をかぶせて踊る場合もあります。踊り手はギタリストにシレンシオの有無だけでなく、コンパス数なども伝えましょう。長調と短調のシレンシオを合わせてダブル・シレンシオという場合もあります。

⑤カステジャーノ: 通常4コンパスの盛り上がったメロディーが歌われます。カステジャーノ、パセオ・デ・ラ・カステジャーノ、パセイジョ、パソ・カステジャーノなど、アンダルシアとマドリッドでも呼び方がさまざまです。最近の振りでは省略されることも多いので、歌手に有無を伝えてください。

⑥エスコビージャ: エスコビージャ中にファルセータやハレオ歌、タパオなどが入る場合もあります(エスコビージャの説明は先月号参照)。

⑦ブレリア: 通常は8コンパス程度のカディアスのブレリア(ブレリア・デ・カイ)が一つか二つ歌われます。

⑧ハケ: ハケ歌にのって舞台からハケるか、デスプランテ(急な静止)をするか、キメのリズムなどで踊り手が舞台上で締める場合などがあります。

### レトラ(Letra)の構造

アレグリアスの歌振りは2コンパスずつの区切れ目で出来ているメロディーを、通常11コンパスで歌われることが多いです。しかし11コンパスの歌を歌うわけではなく、コプラ(copla)と呼ばれる8音節4行の詩にコレティージャ(coletilla)という別の詩を付けて11コンパスにしています。アレグリアスと同じ8音節4行詩でもロメーラなどはメロディーの区切れ目がちがうので、同じ振りで踊ることは出来ません。その他、カラコレスやミラプラスなど固有な形式を持つ曲や、固有な形式を持たないカンティーニャスなどを踊る時は、特にその曲を知る必要があります。

紙面の関係で残念ながらアレグリアスの詩の形式の説明は来月になってしまいました。踊り伴唱で頻りに歌われる歌詞をたくさん取り上げますので、実践に役立つと思います。

音源は片桐勝彦 HP で聴けます! URL <http://www.toshima.ne.jp/~kata/katsu>  
同内容のバルマクラス、スタジオロメロで開催中。7月8,22日,20:40~終電ぐらいまで